

第28回(令和3年度) 千葉県建築文化賞 表彰作品集



主催：  千葉県

共催：  一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 熊谷 俊人

令和3年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第28回となる今年度は、53点もの御応募をいただきました。その結果、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、最優秀賞2点、優秀賞4点及び入賞2点の合計8点を選定したところです。

受賞作品は、新築の建物から既存ストックを有効活用したもので多岐にわたっており、周辺環境との調和や地域との交流活動を進めるもの、歴史を刻むもの、新たな取組をするものなど、いずれも千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、本県の建築文化の向上と、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、首都圏、日本をリードし、未来の千葉を担う次世代の子どもたちが誇れるような千葉県の実現に向け、全力で取り組んでまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに御応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさついたします。

令和4年3月

目次

千葉県建築文化賞について	1	スパイラル アンド パラレログラム Spiral and Parallelogram/クレバスノイエ	8
第28回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	いちほらライフアンドワークコミッションオフィス	9
ZOZO本社屋	3	イ・コ・イ 唯・巧・居の家	9
東我孫子の家	4	選考の基準	10
香取市佐原チャレンジショップ(上仲町第一施設)	5	第28回千葉県建築文化賞検討会議	10
千葉ウシノヒロバ	6	千葉県建築文化賞の実績(応募総数・受賞作品数)一覧	10
古民家あらやし	7	受賞作品の位置	

第28回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募53点から8点を表彰



千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

(選考経過)

第28回千葉県建築文化賞は令和3年6月の検討会議で募集要領を定め、7月上旬から9月下旬まで応募を受け付け、総数53点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物6点、住宅7点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公平性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、最優秀賞2点、優秀賞4点、入賞2点を表彰候補作品として決定した。

今回も新型コロナウイルスの影響を受けたが、第5波のピークが検討会議開催や現地調査の時期とずれたため、なんとかスケジュールどおりに募集・調査・選考を進めることができた。さまざまな規制・制限のなか、力のこもった作品を応募・推薦して下さった皆さまの熱意に、改めて深く感謝します。

今年度の検討会議も座席の間隔を広くとり、オンライン参加も導入して、入念な感染防止策を講じての開催となった。困難な準備に奔走していただいた事務局にも心から感謝したい。

募集部門	選考過程	応募総数	1次選考・ 現地調査	2次選考(表彰候補作品選定)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		27	6	1	2	1
住宅		26	7	1	2	1
合計		53	13	2	4	2

(総評)

一般建築物の部への応募は27点であり、昨年度に比べて2/3弱の件数となったが、事務所、店舗などを中心に、興味深い作品が見られた。

最優秀賞の「ZOZO本社屋」は、ファッション通販企業の本社である。「着心地のよい服のような建築」をコンセプトに、約30mの吊り構造屋根でスキップフロアの執務空間を包み込み、街路に面したファサードを全面ガラスにして、街とのつながりをはかっている。物理的な開放性だけでなく、地域との交流活動も積極的に進めているとのことであり、その成果であろうか、社員が道行く人と会釈を交わし、時に招き入れている姿が印象的であった。

優秀賞の「香取市佐原チャレンジショップ(上仲町第一施設)」は、地元信用金庫が起業支援の店舗として旧支店跡地に建設し、市に寄付した建物である。かつてここにあった呉服屋のファサードを模したチャレンジショップを街道沿いに置き、細長い敷地の奥に山車蔵、ショップ脇に屋外席としても利用できる山車の通路を配している。伝統的建造物群保存地区の活性化をはかる意欲的な施設である。

「千葉ウシノヒロバ」は、半世紀の歴史を持つ千葉市乳牛育成牧場の跡地を民営化した施設である。乳牛育成事業を引き継ぎつつ、既存施設を活用し、ロッジ、トイレ・キッチン棟、シャワー棟などのキャンプ施設を整備し、自然共生型の観光拠点を目指している。ハード面だけでなく、ソフト面でも魅力的な挑戦である。

入賞の「いちばらライフアンドワークコミッションオフィス」は、移住定住による空き家活用プロジェクトの拠点施設である。空き家を改修した空間は荒削りだが、地域おこしを先導するエネルギーを感じさせる。

一般建築物の部

住宅の部は、昨年度(14点)の倍近い26点の応募があり、ほとんどが専用住宅だが、生活も環境も多彩で、受賞にいたらなかった作品にも質の高いものが多かった。

最優秀賞の「東我孫子の家」は、緑豊かで閑静な住宅街の角地に建つ控えめなスケール感の住宅である。扉や門扉を設けず、道路境界に在来種の樹木と下草を植えており、軒高を低く抑えたファサードとあいまって、周辺環境と調和したたたずまいを生んでいる。きめ細かな設計とそれに呼応した大工棟梁の技能がみごとに結実している。

優秀賞の「古民家あらし」は、築100年の古民家を改修した一棟貸しの宿泊施設である。里山の緑に包まれて住みつけられてきた民家を、躯体、梁・大黒柱など当初のまま維持しつつ、現代の暮らしに合わせて改装している。屋根裏を積極的に見せる工夫など、建築文化継承の意欲を感じさせる。

「Spiral and Parallelogram/クレパスノイエ」も、住宅地の角地を占めているが、前面道路の交通量が比較的多く、南西風が強いという条件に合わせ、杉板の垂れ壁でくまられた姿をしている。しかし、過度に閉鎖的ではなく、吹き抜けを介して連続する生活空間の気配が、テラスのスリットや開口部から街ににじみ出している。

入賞の「唯・巧・居の家」は、JR駅に近い用途混在エリアに建つ4戸の分譲住宅である。薄暗いデッドスペースになりがちな隣棟空地の位置・形状を工夫し、間口約10m、奥行き約45mの敷地に心地よい「庭」を持つ都市型住宅を実現している。

住宅の部